

新たな科学技術を活用した地震調査研究について
(中間とりまとめの項目案)

1. 背景

- ・ 地震本部におけるデータ蓄積のあゆみ（調査観測計画策定等）
- ・ 地震調査研究の今後の方向性（第3期総合的基本施策）
- ・ 海外における地震調査研究の動向（米国・欧州を中心として）

2. 検討の方向性、考え方

- ・ 地震調査研究における情報科学技術の活用の現状と課題
- ・ 情報科学技術が地震の評価に与える影響と方向性
(例)
 - － 観測点配置の最適化、新たな地震観測技術の導入
 - － 余震予測の空間的評価への進展
 - － 地震波、地殻変動等統合的な地震評価の導入

3. 取り組むべき課題

- ・ 情報科学分野と地震分野の研究者が協働することが重要
- ・ 分析に向けたデータ整備を行うことが重要
(取組例)
 - － 異分野の研究者が協働する場としての研究プログラムの構築
 - － ノイズと地震波の分離を自動的かつ高精度に実施
 - － 観測データ種毎のアノマリーの抽出
 - － 過去の大地震時における複数観測データの本震前（前震）及び本震後（余震）の特徴量の抽出